



現役最後の挑戦は「最高の舞台」

力の限りピッチを駆け抜ける！

しょうじかな
東海林 香那さん

手話で「デフリンピック」を表現する東海林選手

プロフィール

市内在住のデフサッカー*プレーヤーで、東京デフリンピック2025女子サッカー代表。ポジションはフォワードで、持ち前の身体能力を活かしたプレーで得点を狙う。東京大会では、女子サッカー初となるメダル獲得を目指す。

*聴覚に障害があるプレーヤー同士で競うサッカー競技

香那選手にお話を伺いました。それでも、健聴者の友達とともに「聴覚の障害は先天性のもので、不自由なく一緒に過ごせるように」と考えた母が、子どもの頃から発声や指文字の練習に付き合ってくれました。練習の成果もあり、ろう学校に通わず健聴者と同じ学校で過ごした東海林選手。学校生活を送る中でも、運動は人一倍得意だったようです。

「スポーツは何でも上手にできましたね。特に中学から始めたハンドボールでは、全国大会で優勝、日本一になることができました」

高校、大学もハンドボール選手として高いレベルに身を置きました。しかしある時、後のキャリアに大きな影響を与える転機が訪れます。

「幼なじみがデフリンピックの水泳競技で金メダルを取つたんです。世界を相手に戦う友人の姿を見て、私もこの舞台に立ち

不自由なく一緒に過ごせるように」と考えた母が、子どもの頃から発声や指文字の練習に付き合ってくれました。

「かからの挑戦だったので技術面はとても苦労しましたが、ハンドボールで培ったスピードと

スタミナは、トップレベルでも十分通用しました。空いたスペースに向かって走り勝つような

プレーは、キャリア初期から今

に至るまで私のストロングポイントです」

順調にサッカー選手として頭角を現し、2大会連続でデフリンピックに出場。しかし、2013年大会の最後の試合で膝に大

怪我を負い、約3年間競技から離れることになります。

「当時は燃え尽き症候群のよう

な状態になってしまっていまし

た。しかし、2015年のデフフ

ットサルワールドカップで、か

つて一緒にプレーした選手が活

躍している姿を見て『またプレーしたい』という気持ちを取り戻すことができました」

そこから競技へ復帰を果たし、現在はサッカーとフットサル、二足の草鞋で活躍しています。



@JDFA

迷いのない晴れやかな表情で語ってくれた東海林選手。現役力強く走る姿にご注目ください。

「この大会を最後に現役から退くことを決めていました。だからこそ、とにかく楽しんで、悔いのないよう精一杯プレーしたいです。その結果、女子デフサッカー初のメダルを持ち帰つて来られたらしいですね」

「この大会を最後に現役から退くことを決めていました。だからこそ、とにかく楽しんで、悔いのないよう精一杯プレーしたいで

す。その結果、女子デフサッカー初のメダルを持ち帰つて来られ

たらしいですね」

本記事における東海林選手のコメントは、ご本人や手話通訳の方が手話などを使って話した内容を文字に書き起こしています